



EPSホールディングス株式会社

2021年9月期（第31期） 第2四半期決算説明会

2021年5月19日

EPSホールディングス株式会社

取締役

社長執行役員

長岡 達磨

- 1 | 事業領域及びマネジメント体制について**
- 2 | 2021年9月期 第2四半期決算概要**
- 3 | 2021年9月期 通期業績計画**
- 4 | 2021年9月期 重点取組み**
- 5 | 株主還元**

1 | 事業領域及びマネジメント体制について

国内事業

CRO

イーピーエス

EPクルーズ(臨床系ITを取り込み)
EPメディエイト
(医療機器+保健機能食品)
EP山梨

SMO

EP総合

CSO

EPファーマライン

EPフォース(医薬品情報提供)
ESリンク

海外事業

Global
Research

EPSインターナショナル

中国CRO事業会社
他海外事業会社

益新

EPS益新、益新中国

上海華新
益通(蘇州)
EPトレーディング
他中国事業会社

その他

EPSデジタルシェア (IT・シェアード化推進)
イーピービズ (周辺事業の創出)



EPS ホールディングス

事業統括本部(CBO)管理・支援・企画推進

CRO

(セグメント長) 佐々
(副セグメント長) 佐久間 ※
島田 ※
地家

SMO

山本
鷺尾 ※

CSO

小笠原 ※
池田 ※
後藤

Global
Research

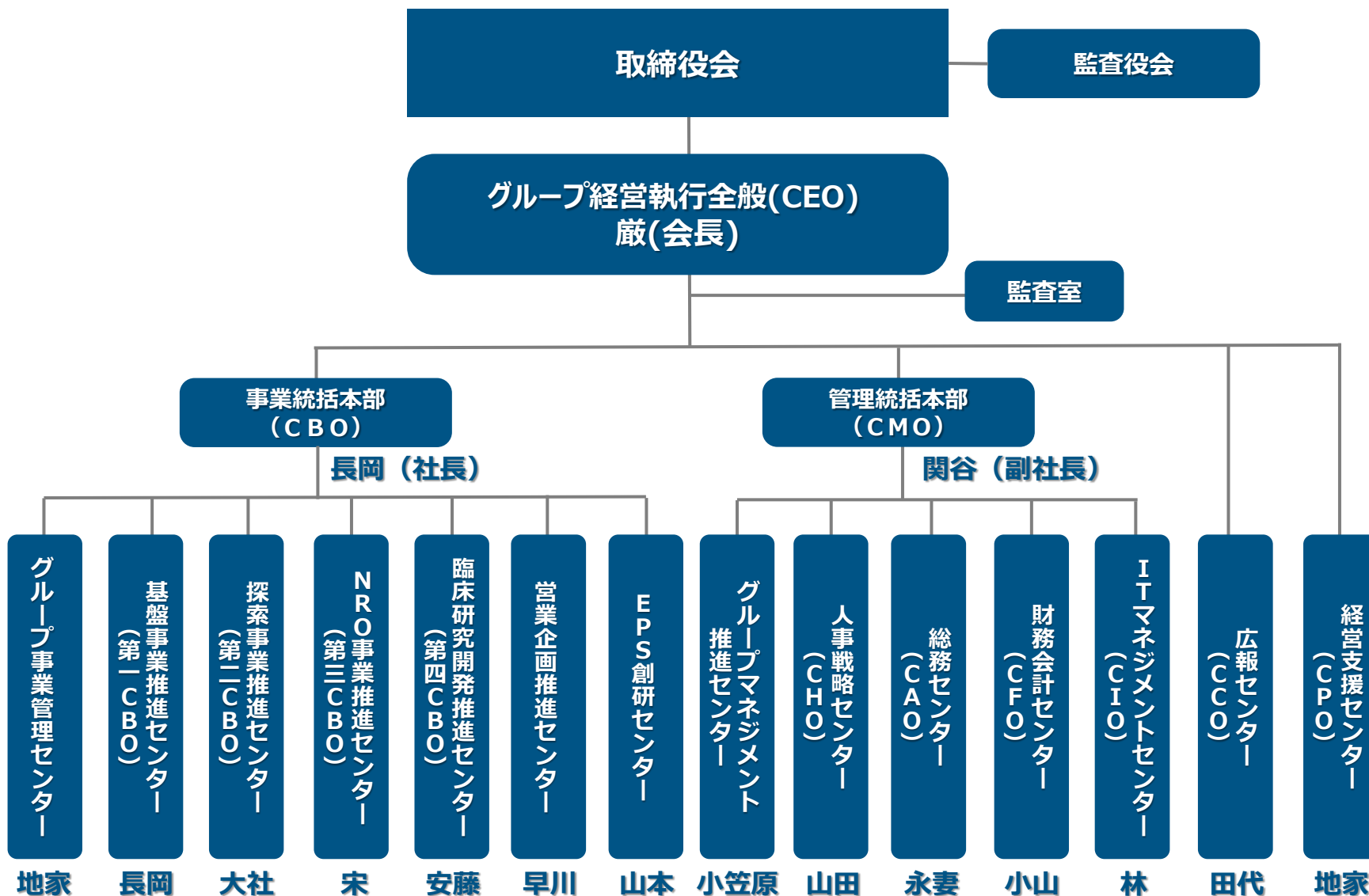
早川 ※

※10月より新任

益新

巖
田代

- ・セグメントにおいて次世代若手人材(女性を含む)をトップマネジメント層に登用
- ・事業統括本部(CBO)を4セグメントの本社機能と位置づけ



2 | 2021年9月期 第2四半期決算概要

2021年9月期 連結業績

(単位：百万円)	2020/9期 第2四半期 実績	2021/9期 第2四半期 期初計画	2021/9期 第2四半期 実績	期初 計画比	計画比 増減率	前年同期比 増減率
売上高	33,663	33,506	35,390	1,884	5.6%	5.1%
営業利益 (利益率)	2,684 (8.0%)	1,848 (5.5%)	3,807 (10.8%)	1,959	106.0%	41.9%
経常利益 (利益率)	2,823 (8.4%)	1,960 (5.8%)	4,326 (12.2%)	2,366	120.7%	53.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益 (利益率)	1,917 (5.7%)	1,029 (3.1%)	2,617 (7.4%)	1,588	154.3%	36.5%

2021年9月期 セグメント別業績

(単位：百万円)			2020/9期 第2四半期 実績	2021/9期 第2四半期 期初計画	2021/9期 第2四半期 実績	期初 計画比	期初計画比 増減率	前年同期比 増減率
国内事業	CRO	売上高	15,595	15,466	16,717	1,251	8.1%	7.2%
		営業利益 (率)	2,438 (15.6%)	2,220 (14.4%)	3,566 (21.3%)	1,346	60.6%	46.3%
	SMO	売上高	6,917	6,800	6,700	△100	△1.5%	△3.1%
		営業利益 (率)	911 (13.2%)	646 (9.5%)	940 (14.0%)	294	45.5%	3.2%
	CSO	売上高	5,663	5,780	6,336	556	9.6%	11.9%
		営業利益 (率)	399 (7.0%)	361 (6.3%)	807 (12.7%)	446	123.5%	102.1%
海外事業	GR	売上高	1,889	1,402	1,583	181	12.9%	△16.2%
		営業利益 (率)	99 (5.2%)	△109 (—)	17 (1.1%)	126	—	△82.2%
	益新	売上高	4,084	3,988	4,331	343	8.6%	6.1%
		営業利益 (率)	△257 (—)	△159 (—)	△181 (—)	△22	—	—

(注) 各セグメントの営業利益には

①HDへの経営指導料を含まない

②のれん償却費・シェアードサービスへの委託費を含む

対 期 初 計 画

新型コロナウイルスの影響については、前期第4四半期の状況が継続する前提で計画

売上高対計画比：5.6%

- ・国内は、SMOに新型コロナの影響があるものの、新規顧客拡大などにより受注が拡大し順調に推移
- ・海外顧客向け臨床試験は受託が進まず未達、中国国内の製造販売は計画超過

営業利益対計画比：106.0%

- ・国内(CRO・CSO)の売上超過の効果、コスト構造改革による管理費用の抑制

対 前 年

売上高対前年比：5.1%

- ・国内は、CROのモニタリングが高稼働率であること、CSOの各業務が順調に伸長していることにより、SMOの新型コロナによる影響をカバー
- ・海外顧客向け臨床試験は稼働案件の減少により売上減
- ・益新事業は前期製造ライン一時停止の影響等の反動で増加

営業利益対前年比：41.9%

- ・売上増加の効果、コスト構造改革による管理費用の抑制

CRO

- ・ モニタリングは、新規アライアンスの効果による受注増、高稼働率を継続
- ・ データサイエンスは、業務進捗が良好、低採算案件を改善
- ・ モニタリング以外の事業も、概ね計画を超過

SMO

- ・ 新型コロナによる被験者減少、特に地方の医療機関が苦戦
- ・ CRCの適正配置や原価、販管費抑制強化により営業利益増
- ・ 引合が好調で、受注残は過去最高

CSO

- ・ コールセンターは新規取引先開拓、新型コロナ関連業務の受託等により伸長
- ・ CMRは、新規プロジェクトへの人員配置が進み稼働率向上
- ・ WEBセミナーの開催増加等により売上増加

GR

- ・ 日本:グローバルCROとの競争激化により新規受注苦戦
売上計画超過は下期前倒し
- ・ 中国:市場拡大に伴い引合好調だが、一部試験が遅延
- ・ アジア(中国除く):原価・販管費をコントロール

益新

- ・ 医薬品製造販売は、供給再開により前期比売上増
- ・ 製品輸入販売(中国向け)は、順調に販売増
- ・ 研究資材販売(日本向け)は、前期あった大口顧客への売上が今期はなく減少

1.CACクロア※を買収

PV業務を強みとする(株)CACクロアを買収、同社の優れた情報技術と豊富な実績に基づく業務ノウハウを活用する予定

※2021年6月買収完了予定

2.香港メインボード上場のSpeed Apparel※を買収

Speed Apparel Holding Limited (EPS創健) を日中間のプロダクトビジネスの中核とし、「創薬」など多角展開を推進

※2021年4月買収完了、EPS創健科技集團有限公司 (EPS Creative Health Technology Group Ltd.) に社名変更予定

3.土浦市と包括協定締結

同市の災害対応（人材派遣）、健康増進（がん検診率の向上への助言、ワクチン接種体制構築）等、協力体制の構築

3 | 2021年9月期 通期業績計画

(単位：百万円)	2020/9期 実績	2021/9期 期初計画	2021/9期 修正計画	期初 計画比	期初計画 比率	前期比率 (修正計画)
売上高	66,689	69,800	75,000	5,200	7.4%	12.5%
営業利益 (利益率)	4,553 (6.8%)	4,800 (6.9%)	5,500 (7.3%)	700	14.6%	20.8%
経常利益 (利益率)	4,978 (7.5%)	5,000 (7.2%)	5,900 (7.9%)	900	18.0%	18.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (利益率)	1,995 (3.0%)	2,600 (3.7%)	3,300 (4.4%)	700	26.9%	65.4%

2021年9月期 セグメント別計画

(単位：百万円)			2020/9期 実績	2021/9期 期初計画	2021/9期 修正計画	期初計画比	前年比率 (修正計画)
国内事業	CRO	売上高	30,504	31,400	33,100	1,700	8.5%
		営業利益 (率)	4,360 (14.3%)	4,760 (15.2%)	5,500 (16.6%)	740	26.1%
	SMO	売上高	13,220	13,900	13,500	△400	2.1%
		営業利益 (率)	1,541 (11.7%)	1,300 (9.4%)	1,600 (11.9%)	300	3.8%
	CSO	売上高	11,424	11,600	12,300	700	7.7%
		営業利益 (率)	849 (7.4%)	740 (6.4%)	1,370 (11.1%)	630	61.4%
海外事業	GR	売上高	3,540	2,900	2,930	30	△17.2%
		営業利益 (率)	41 (1.2%)	20 (0.7%)	△60 (-)	△80	—
	益新	売上高	8,613	8,800	8,600	△200	△0.2%
		営業利益 (率)	△210 (-)	△200 (-)	△370 (-)	△170	—

(注) 各セグメントの営業利益には
 ①HDへの経営指導料を含まない
 ②のれん償却費・シェアードサービスへの委託費を含む

売上高

- ・ CROは高稼働率が継続、CSOも伸長するが、SMOは新型コロナの感染拡大による被験者来院減少の影響を受ける
- ・ GRはグローバルCROとの競争激化により新規受注苦戦
- ・ 中国は製造ラインが再開するも、需要の回復が遅れる
- ・ 買収2社の効果により増収

営業利益

- ・ 管理費用抑制の効果により営業利益増加
- ・ 想定を上回る受注に対して人材確保費用の発生
- ・ インフラ・システムなどのIT基盤整備の先行投資を実施

CRO

- ・ モニタリングは、想定を上回る受注に対応するために、人材確保費用が発生
- ・ データサイエンス、臨床研究は期初計画を上回る見込み
- ・ 臨床系ITは売上・利益が若干の未達の見込み

SMO

- ・ 新型コロナによる影響により期初計画は未達だが、増収増益を計画
- ・ SDMなどの活用によりCRCの生産性を向上
- ・ リモート業務推進を前提とした活動経費の大幅な見直し

CSO

- ・ コールセンターは 新型コロナ関連業務などの受託により伸長
- ・ CMRは、大型案件の終了による案件の狭間
- ・ WEBセミナーの開催増加

GR

- ・ 日本:売上が上期前倒し、受注強化のためマーケティング・提案力強化
- ・ 中国:上期一部試験が遅延したが進展、ローカル案件の受注拡大
- ・ アジア(中国除く):赤字拠点の縮小・整理など原価・販管費をコントロール

益新

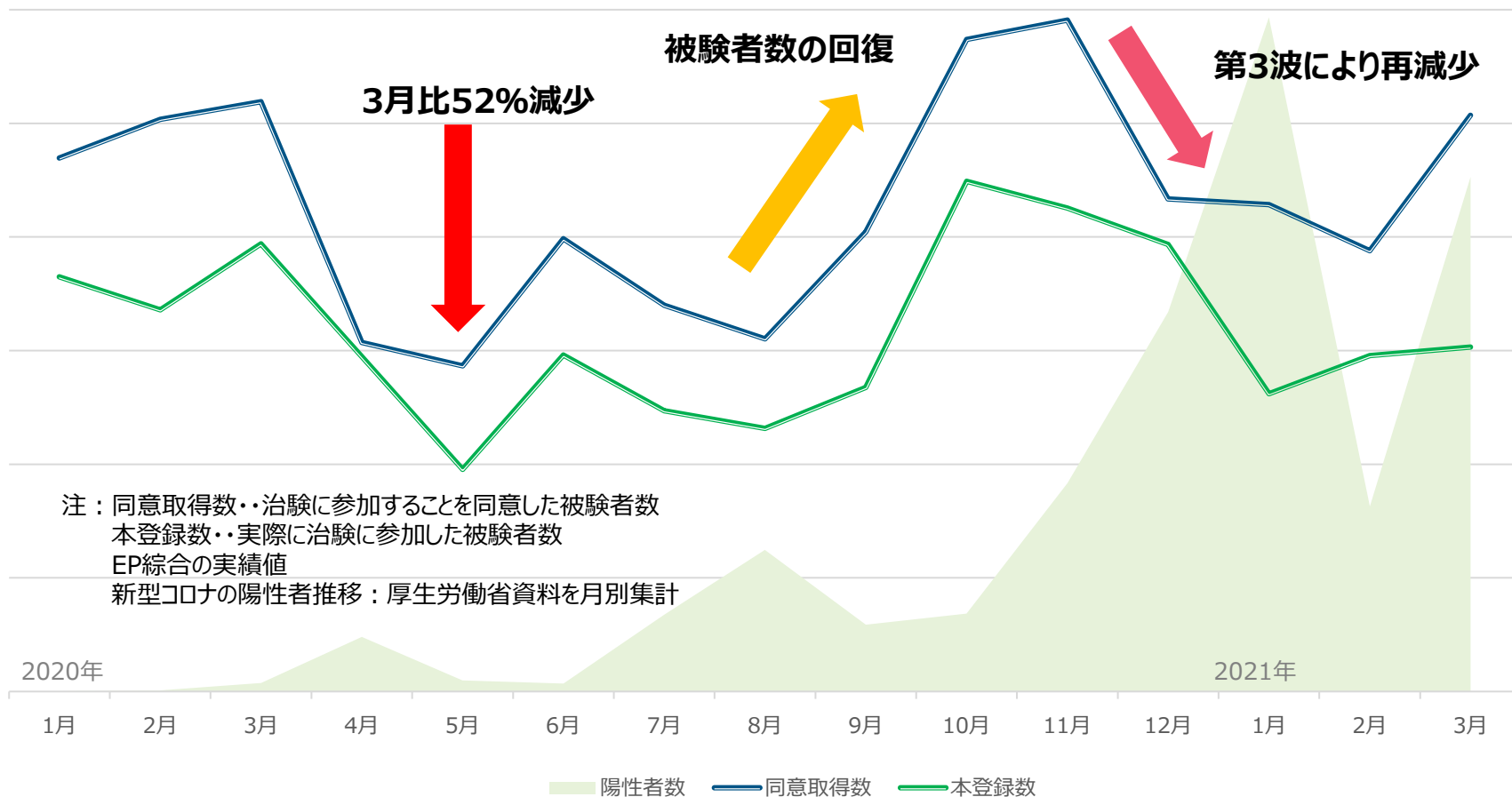
- ・ 医薬品事業は、製造ラインの新基準への認可が遅れるとともに、当局審査用サンプル供給のため、販売用製品の生産量が減少
- ・ 国際貿易は、研究用資材の販売拡大と販売アイテム数の増加
- ・ 創薬に向けた投資、再編を推進

2021年9月期 セグメント受注

(単位：百万円)		2020/9期 上期	2021/9期	2021/9期 上期			
		受注	期首受注残高	受注	前年同期 増減率	受注残高	期首比 増減率
国内事業	CRO	11,307	44,365	24,307	+115.0%	52,196	+17.7%
	SMO	6,844	21,831	8,204	+19.9%	23,346	+6.9%
	CSO	6,085	10,538	6,013	△1.2%	10,226	△3.0%
海外事業	GR	△834	5,811	978	—	5,366	△7.6%
	益新	3,703	158	4,385	+18.4%	224	+41.8%
その他		295	30	147	△50.2%	23	△23.3%
合計		27,401	82,737	44,037	+60.7%	91,384	+10.5%

(注) 1.前期GRセグメントの受注のマイナスは、プロジェクト中止による受注の取り消し
2.期首残高は、セグメント組替後

同意取得数・本登録数推移



4 | 2021年9月期 重点取組み

事業の活性化 ~商品の革新~

1. 既存商品を柔軟に組み合わせた新商品開発(例.ハイブリッドCRC/CRAなど)
2. 開発戦略企画力の強化
3. バーチャル治験の推進やAI・ビッグデータの活用
4. ワンストップサービスの推進(開発から販売まで専門性の高いフルラインサービス)
5. デバイス・保健機能食品など新たな領域へ拡大

事業の活性化 ～事業構造の革新～

1. ニーズが低下している業務と低収益業務の再構築
2. 欧米市場における提携先との関係強化
3. 中国・アジアのCRO事業の再編
4. アカデミアや創薬ベンチャー向けに新たなビジネスモデルの探索
(例. 成功報酬型フィーモデルなど)
5. 益新事業の新たなステージへの転換

組織の活性化

1. 新たな働き方への試みを含む人事制度改革

- ・多様な働き方に対応した勤務体制の構築
- ・人財の流動化、適材適所の人事の仕組作り
- ・事業・組織改革の加速化を支援する人事制度改革の推進

2. デジタル化・シェアード化の推進

- ・ITの活用による業務効率化
- ・グループ管理系業務の集約化の推進(シェアードサービスの効率化)

3. オフィスの効率的・有効活用の推進

4. グループマネジメントの“型”創りの推進

- ・マトリクス経営の定着
- ・思考と実践の反復によるマネジメントの型創り
- ・研修制度の活用による浸透、定着化

創業30周年プロジェクト

- 1.30周年記念式典・記念シンポジウム(顧客・社員とのコミュニケーション)
- 2.CI・社史(アイデンティティの再構築)
- 3.EPSWAYの増補・改訂(マネジメントの浸透・定着)

新たな事業計画の策定に向けて



筑土プロジェクト

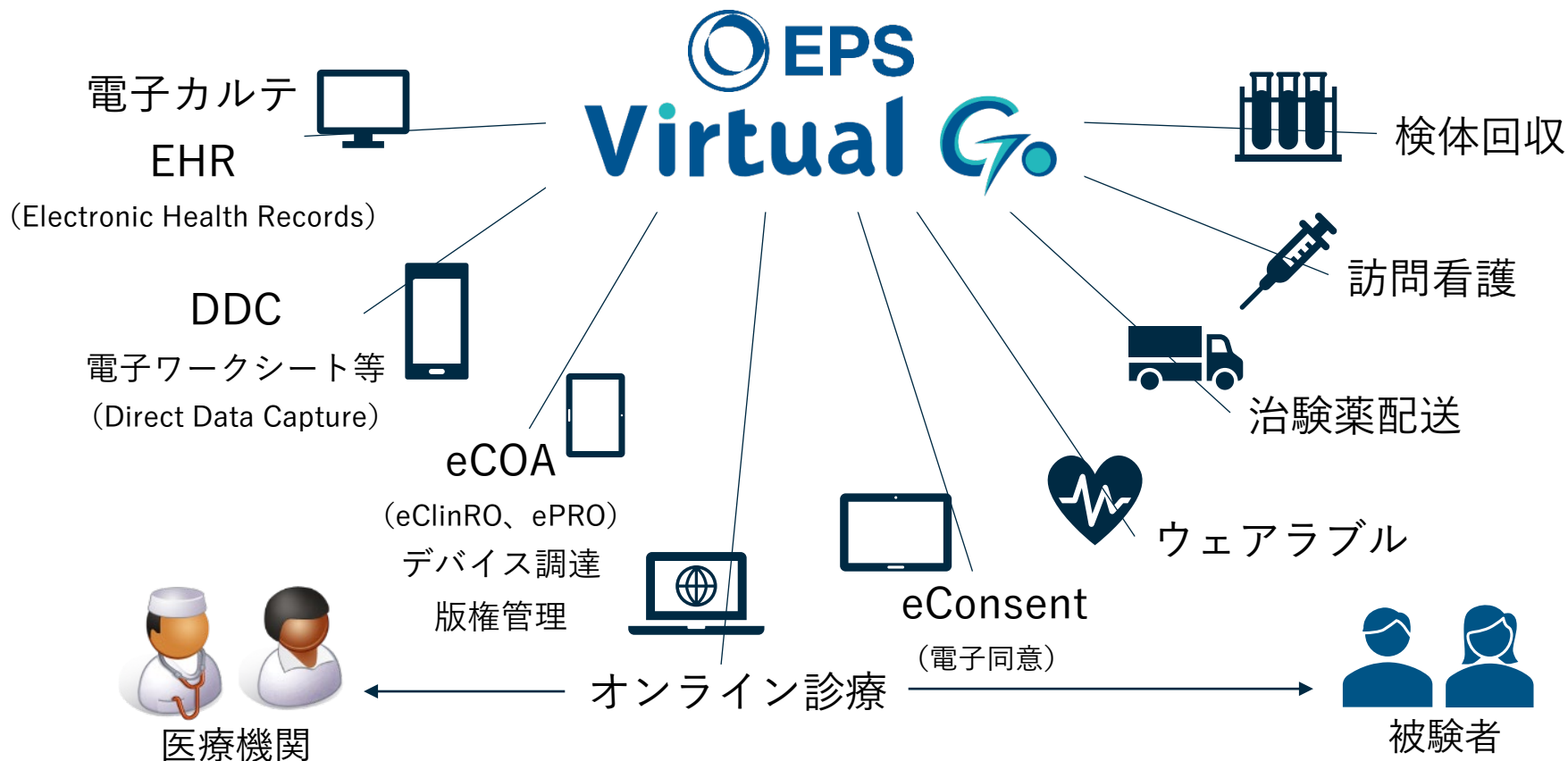
モニターが施設へ訪問しなくてもよい
バーチャル

モニタリングの効率化や負荷軽減



被験者が施設に来院しなくてもよい
バーチャル

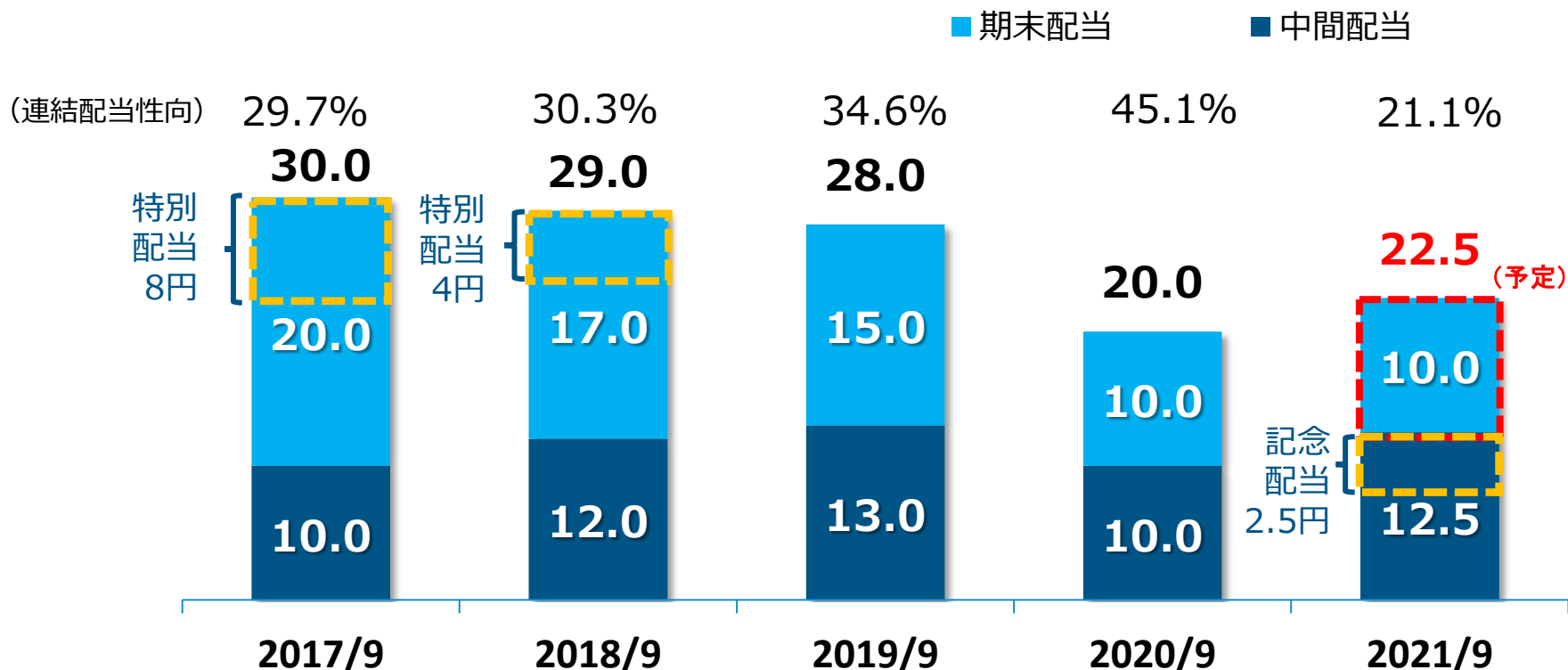
被験者の利便性や満足度の向上



5 | 株主還元

基本的な配当方針

- ・ 将来の事業展開と収益力向上に向けて、企業体質強化のために必要な内部留保を確保
- ・ 継続的な株主の皆様への利益還元の充実
- ・ 中間配当で創業30周年記念配当2.5円を実施
- ・ 期末配当については業績の動向を踏まえ決定



ありがとうございました

お問い合わせは、EPSホールディングス(株)
財務会計センター IR担当までお願い致します
TEL : 03-5684-7873 / E-Mail : ir@eps.co.jp

EPSホールディングス株式会社

本資料中の業績予想および将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料を作成するにあたっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負うものではありませんので何卒ご了承ください。

- 本資料に関するお問い合わせ
EPSホールディングス株式会社 財務会計センターIR担当
TEL : 03-5684-7873
e-mail : ir@eps.co.jp



ANNIVERSARY

新しいEPS
はじまります